

防災拠点が新しくなりました 南会津消防署只見出張所新庁舎が開所



只見出張所 開所式が 行われました

南会津地方広域消防本部・消防署只見出張所の開所式が、6月30日に長浜字川除地内の新庁舎で行われ、関係者が新たな防災拠点の運用開始をお祝いしました。

開所式は、南会津地方広域市町村圏組合管理者の星下郷町長のあいさつや、渡部只見町長の祝辞、消防本部の高橋消防長より工事経過報告などが行

われ、その後、工事関係者などに感謝状が贈られました。

また同日の午後は、一般の方向けの内覧会が行われ、新たな防災拠点を一目見ようと、子どもから大人まで多くの方が訪れました。訪れた方は「明るく温かみのある建物になったと感じます。

仮眠室などを目にして、昼夜問わず出動に備える職員に感謝しながら、改めて火事や大雨に気を付けたいと感じました」と話しました。

感染症や 女性職員勤務に 対応した庁舎

敷地面積は約2941平方メートル、延べ床面積は約543平方メートルで、鉄骨造り2階建ての構造となっています。中には、事務室、出動準備室、会議室、仮眠室などを備えています。他にも、耐震・豪雪対策、3日間無給油で発電可能な非常用発電機を備え、防災拠点としての維持機能を有しています。また昨今の感染症対応として救急消毒室や、女性職員の勤務に対応した女性専用室なども備えた施設となっています。



▲一般内覧会では、消防車の装備説明もあり、子どもたちは試乗する等して楽しむ一面も見られました



▲仮眠室は個室タイプが整備されています

万が一の災害への備えをお願いします

只見出張所が新しくなり、発電設備を備えるなど防災拠点として、より頼みになりましたが、万が一の災害時には、まず自分が、自身の身を守ること、家族の身を守ることが大切です。

年々激しくなる台風や大雨がもたらす川の氾濫や土石流によって、道路や家が流されることも珍しくなくなっています。それに伴い、災害に対する考え方、備え方も見直し、新しくする必要があります。

町では、平成23年新潟・福島豪雨災害や令和元年東日本台風などの災害経験を基に「只見町防災マップ」を作成し、昨年、全戸配布いたしました。

只見町防災マップには、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などが示されたマップの他に、避難行動ガイド、防災情報の入手方法、各種災害の解説、非常時の持出品などが掲載されています。お住まいの集落の避難場所の確認や災害時にどのような行動をとるべきかなど、家族皆さんで改めて確認をお願いします。

○マイ避難シートを確認しましょう

「マイ避難シート」は、家族構成や自宅周辺の災害リスクに合わせて、どのタイミングで、どのような行動が必要かを考え、家族で共有しておく避難計画です。只見町防災マップの4ページにあるマイ避難シートを家族みんなで再確認しましょう。

パソコンとプリンターをお持ちの方は、インターネットでもマイ避難シートが作れます

- ① ウェブブラウザ『ふくしまマイ避難シート』と検索し、「ふくしまマイ避難シートー福島県ホームページ」にアクセス
- ② ページ内右上の「マイ避難シートを作成する」をクリックし、作成ページにアクセス
- ③ 画面の指示に従い、必要事項を入力
- ④ 入力後画面に表示されたマイ避難シートを印刷。(家族分印刷するなど、共有できるようにしましょう)

【記入例】

 自宅の災害の危険性を ハザードマップで確認	浸水想定区域 ☒ 洪水浸水想定区域 ☐ 0.5m ☒ 1.0m ☐ 2.0m ☐ 3.0m ☐ 5.0m ☐ 該当しない	☒ 3・4階 ☐ 2階 ☐ 1階 ☐ 1階床下	5m～10m未満 (3階床上～4階軒下浸水) 3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水) 0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水) 0.5m未満 (1階床下浸水)	
	土砂災害の危険性 ☒ 土砂災害警戒区域 ☐ 土砂災害特別警戒区域 ☐ なし			

今後気象状況 悪化のおそれ	気象状況 悪化	災害のおそれあり	災害のおそれ高い	災害発生 または切迫
警戒 レベル 1	2	3	4	5
避難 情報 早期 注意情報 (気象庁)	大雨・洪水・ 高潮注意報 (気象庁)	高齢者等避難 	避難指示 	緊急安全 確保
行動「誰が」「何を」するか (父) テレビの天気予報を注意 (父) 家族全員の今後の予定を確認 (母) 防災グッズの準備 (母) 1週間分の薬を病院に受け取りに行く (私) テレビ、インターネット等で雨や川の 様子に注意 (父) ハザードマップで避難場所、避難手段を確認 など	(祖父母) ○○保健センターに、ヘルパーさんと車で 避難する。(15分) (私) 川の水位をインターネットで確認 テレビで洪水予報の確認 など	(私、父、母) ○○高校体育館に徒歩で避難する。 (20分) など	「命を守る行動を」 ○	

※避難行動については「誰が」「どこに」「誰と」「どのように」避難するかを記入しましょう。

○避難経路、避難場所の確認をしましょう

避難経路を選ぶ際は、危険をなるべく避けられる場所を選び、可能であれば2～3コースは想定しておきましょう。例えば、水路や側溝がある経路は、早期の避難経路としては使用できても、水かさの増加、夜間や大雨の視界不良などで道と水路の境界が見えなくなり、冠水後の避難経路としては危険です。

避難場所についても、指定避難所（集会施設等）の他、条件次第では、親戚や友人宅への避難も候補として検討しましょう。家族の構成、身体の状態も含めて、家族や親戚などと相談し、決めておきましょう。